

働く大人が仕事の魅力を伝える ―「将来の仕事を考える」キャリア講座を実施



香里中・高等学校教諭
西村 克 仁

**仕事の楽しさを知ることが
自分の将来を考えるきっかけに**

香里中学校では3年生を対象に、「総合的な学習の時間」に「将来の仕事を考える」と題した授業を行っています。今年で2年目を迎えますが、さまざまな分野で活躍する社会人を招いて仕事の意義と役割、魅力などについて語っていただき、生徒との自由な意見交換をお願いしています。働く大人は恰好いいのだということを生徒が実感し、仕事への理解と憧れを持つようになること、また、そのような大人に接することで、自分の人生設計や社会に関心を持つこと、そのために「なぜ勉強をしなければならないのか」を大人から子どもに伝えること。これが、この授業のねらいです。

中学3年生の総合学習をどうすればよいか試行錯誤していたところ、社会人の方が学校に来ていろいろ話してくださいたら楽しいだろう、という発想から始めることになりました。ただ問題は、講師の方が集まるかどうかということでした。しかし、

1クラスの生徒は10人から20人程度の少数人数です。テーマは各講師に任せられていましたが、事前に生徒からの質問を渡し、また講師からも課題を出していたら、連絡を取り合い、なるべく生徒が興味をもてる内容を中心に話をさせていただきました。

授業中1クラスずつのぞいてみると、職業ごとの特色を生かし、工夫を凝らした講義が繰り広げられていました。クリエイターとしての資質について話す映像プロデューサー、遺言の書き方を説明する弁護士、製品開発の流れを教える技術開発者など、普段の授業では学べない興味深い話ばかりでした。キャビンアテンダントのクラスでは生徒がエプロンを着け、接客を模擬体験。どの講義でも生徒たちは表情を輝かせて楽しそうに聞き入り、積極的に質問を行っていました。

**「子どもに夢を与える役割」に
手ごたえを感じる講師**

終了後のアンケートでは「自分もこんな仕事がしたい、将来について考えるようになった」と答える生徒が多くいます。こうした生徒たちの反応を見て、今後も、こうした授業における取り組みを推進していきたいと考えています。

社会人講師の方たちも大きなやり甲斐を感じ、2年続けて講師を引き受けてくださった方もいます。今回の講師の中から、キャビンアテンダントとデザイナーの方から、次のような感想を聞かせていただきました。

「後日、生徒たちから手紙をもらうのですが、自分がここま

OB・OGや教員の知り合いを頼り、同志社大学のキャリアセンターにも相談した結果、多くの社会人講師の方が来てくださることになり、ようやく実現にこぎつけることができました。

それが生徒、教員、講師それぞれから好評を得て、2005年も引き続き行うことになりました。

**各職種の特徴を前面に出した授業に
生徒も高い関心を示す**

総合的な学習の時間の流れとしては、1学期に適性検査やワークブックに取り組んで自分と向き合い、2学期から講義がスタート。ほぼ毎週2、3人ずつ講師を招いていますが、11月14日は、15種類の職業の第一線で活躍されている社会人をお招きし、生徒は1時間ずつ希望の2人の話を聞きました。

この日の講師はデザイナー、税理士、キャビンアテンダント、会社経営者、弁護士、警察官、映像プロデューサー、システムエンジニアなど十数人の社会人に来校していただきま

で子どもたちに夢を与えられるとは思っていませんでした。こんなことで夢を与えられるなら、お安い御用です」

「仕事で自分がダイレクトに評価されることが少ないだけに、子どもたちの反応からエネルギーをもらっています」

ニートやフリーターの増加が問題となり、やりたい仕事や仕事の魅力を見つけれない若者が数多くいる現代。この授業がきっかけとなり、生徒たちが自分の将来について真剣に考えるようになることを願っています。(談)



キャビンアテンダントの授業風景

新産業創出をめざす大学間連携の取り組み — 実りある他大学との「学・学連携」を推進

関西・関東8私大産学連携フォーラムの開催

2005年12月5日、同志社大学 寒梅館で「関西・関東8私大産学連携フォーラム」が開催されました。これは、私立大学ならではの個性と柔軟性を生かし、社会ニーズに合わせたきめ細やかなオーダーメイド型の産学連携を実現しようというものの。本学のほか、関西大学、関西学院大学、立命館大学、明治大学、日本大学、中央大学、東京電機大学が合同で開催しました。

フォーラムの第1部では、立石義雄氏（オムロン(株)代表取締役会長）が、『未来から選ばれる産業と企業』時代の変化を先取りするイノベーション』をテーマに講演されました。立石会長は、『新しい科学が生まれると、その科学から種（Seed）をもらって、新しい技術が開発される。開発された技術は、社会を革新（Innovation）していく。また、社会からのニーズ（Need）を満たすために、新しい技術が開発される。この技術が科学に刺激（Impetus）を与えて、新たな技術を作り上げる。このように、科学・技術・社会の3者間には、円環的（Cyclic）



「関西・関東8私大産学連携フォーラム」
展示コーナー

な関係が成り立っている」と説明。オムロン独自の未来予測理論として知られる「SINIC理論」に基づいた、新たな社会貢献、企業価値の創出について分かりやすく話がありました。

引き続き、各大学の産学連携の取り組みや最先端の研究成果を報告する「研究シーズ発表会」を開催。同志社大学からは、井上望教授（工学部環境システム学科）が壇上に立ち、『整形外科インプラントのメイト・イン・ジャパニ化』について講演。同志社大学・医工学研究センターが取り組んでいる「生体適合性材料開発」の説明が行われました。

そのほか、展示コーナーでは、各大学の研究シーズの展示や産官学連携窓口の紹介が行われ、京阪神だけでなく、首都圏などから訪れた企業・団体・大学関係者が、担当者の説明に熱心に耳を傾けていました。

この度関西・関東の垣根を越えて開催された本イベントにより、今後、私立大学間でより一層の包括的な連携協力が進むことが期待されています。

学・学連携で産学連携の輪を広げる

現在本学では、他大学との「学学連携」を積極的に進めており、今回の関西・関東8私大産学連携フォーラムもその一環と位置づけています。2005年12月14日には東大阪市にあるク



「第2回CICフォーラム」の様子

リエイション・コア東大阪（産学官連携を核とした新事業創出センター）で、龍谷大学とのジョイントイベントを行いました。

本学からは工学部エネルギー機械工学科の平山朋子専任講師が「小型精密機器用軸受へのMOS2ショット処理の提供とその効果」という演題で講演をされました。龍谷大学とは

クリエイションコアの産学連携オフィスに同居している関係もあり、昨年に引き続きの開催でした。

また、東京にもリエゾンオフィスを構えており、首都圏での産学連携活動にも素早い対応ができる体制を整えています。東京の田町には、地方の大学が大学の英知を結集し、広く社会に還元するための拠点であるキャンパス・イノベーションセンター（現在、地方の22大学が入居。以下、CIC）があり、本学は開設当初（2004年4月）から入居しています。

2005年11月22日、このCICにおいて入居大学合同のフォーラム（第2回CICフォーラム）を開催しています。入居している18大学との共催で、多くの大学の英知を結集するフォーラムとなり、大きな反響を呼んでいます。本学からはビジネス研究科の山口栄一教授が、自らも役員をされているベンチャー企業（株式会社パウテック、ALGON株式会社）の研究・事業内容の説明をし、たいへん好評を得ました。

また、2006年3月10日には東京で、本学と早稲田大学、慶應義塾大学、立命館大学とで4大学産学連携フォーラムを開催します（会場：経団連会館）。

これら学・学連携は、これまで産学連携を行っていたという企業だけではなく、より幅広い企業に対して本学の研究シーズを発表する好機だと考えています。他大学のシーズに関心があり来場した企業が、たまたま本学の教員の発表に関心を持っていただいたり、産学連携コーディネータと知り合いになつて、後日技術に関する相談をいただき、「新しい出会いの場」となることが期待されます。

（大学リエゾンオフィス）